

# 近藤・高藤 悔しい銅



柔道は6日、男女2階級が行われ、女子48kg級の近藤亜美（三井住友海上）、男子60kg級の高藤直寿（パーク24）がともに銅メダルを獲得しました。

近藤は3位決定戦でウ

ランツエツエグ・モンフバット（モンゴル）に優勢勝ち。試合終了間際に有効を奪って決着をつけました。準決勝ではパウラ・パレット（アルゼンチン）に技ありを奪われて敗れました。パレットが優

勝しました。

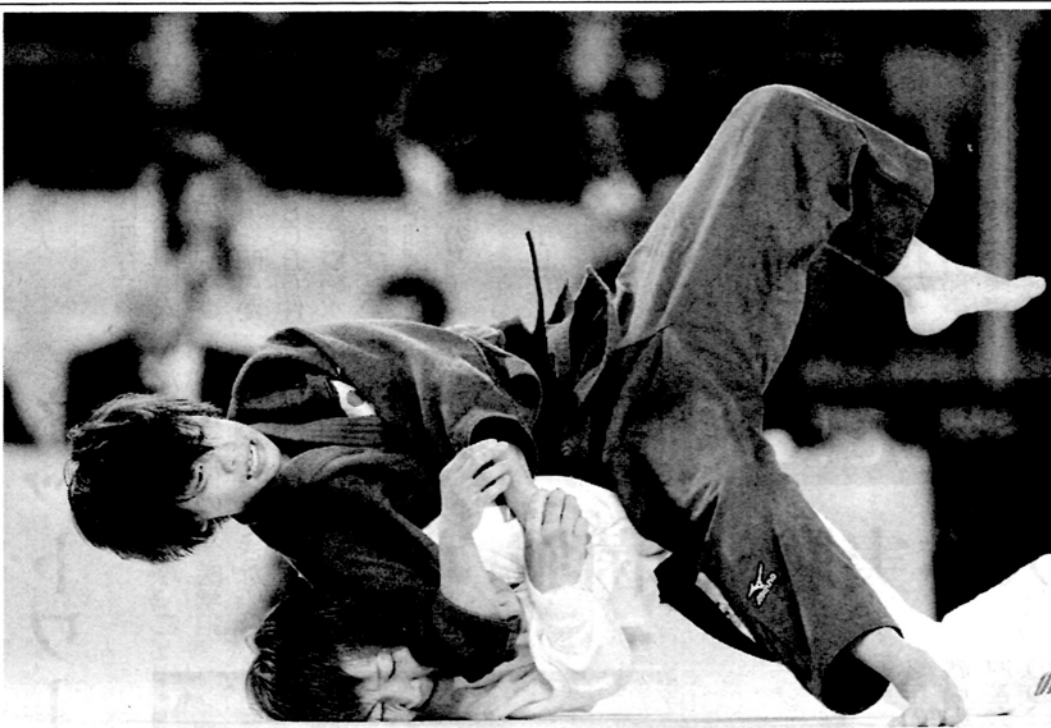
高藤は3位決定戦でオウルハン・サファロフ（アゼルバイジャン）に指導の差で優勢勝ち。準々決勝でアマラン・パピナシビリ（ジョージア）に一本負けしましたが、敗者復活戦で金ウオンジン（韓

国）に優勢勝ちして3位

決定戦に駒を進めました。優勝はベスラン・ムドラノフ（ロシア）。（時事）高藤直寿 悔しい思いしかないが、胸を張って、銅メダルをさげて帰ろうと思う。これから4年間、やめたくてもやめ

られない。もっといい色のメダルを取れるように、強くなりたい。近藤亜美 情けないというか、実力差が出た大会だった。五輪では外国選手の目の色が変わった。やってきたことが少しづつ形になってきているが、銅メダルということは、まだまだ足りないということ。（時事）井上康生男子監督（高藤は）順調にたたかっていたが、一発に泣い

てしまった。メダルを取れるか取れないかは大きな差。負け後はショックや怖さ、いろいろな葛藤があるが、（銅メダルに向けて）自分自身を奮い立たせていた。南條充寿女子監督（近藤は）慎重になり過ぎて動きが硬く、普段の小気味いい柔道ができていなかった。攻めも遅かった。（銅メダルは）東京五輪にもつながる最低限の結果。（時事）



柔道女子48kg級3位決定戦でモンゴル選手を下した近藤亜美（上、時事）



## 正木照夫の 鉄人の目

近藤、高藤ともによく頑張りましたが、金メダル候補というプレッシャーもあり、本来の力を出し切れなかったのが残念です。近藤は準々決勝でガルバドラフ（カザフスタン）に逆転勝ちしたことは素晴らしい。彼女はモンゴル出身で非常にパワフルな選手ですが、力負けせずに寝技で抑えたところは見事です。

## 本来の力を出し切れず

柔道で技ありをとられてから逆転するのは難しい。一本を取り返さなければならぬという焦りから、攻めが粗くなりがちですが、近藤は冷静でした。最後まで諦めずたたかう姿は、応援している人に感動を与えたのではないのでしょうか。準決勝では、優勝したパレット（アルゼンチン）に、力負けしてしまっただけです。緊張のため、普段より体がかたくなっていたのもあるでしょう。今後の課題は筋力をつけること。海外選手はレスリングなど他競技の練習を取り入れてトレーニングをしているので、日本も参考にするといいでしょう。高藤は準々決勝で、勝てる相手に負けてしまいました。大丈夫だという安心が、ちょっとした隙につながってしまったのではないかと。その後持ち直して、敗者復活戦では世界ランク1位の選手に勝ったのは立派です。実力はあるのだから、今後地道に積み重ねてほしい。（拓殖大学柔道部師範・八段）